

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 昭代教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その日の利用者を職員間で話し合いを行い、次の支援に向けてどのようにしていくのか話し合いを行っていること。	職員全員に意見する機会を設け、どのように対応を行ってどんなふうな反応だったのかなどをそれぞれに聞き、その職員さんが思う対応方法を確認して、今後の支援方法を決めている。	効果測定のある生徒さんは期間を設け、職員間で1つの視点で支援を行い、どのように変わったのかなどを話し合い、職員全員で目標が一致して支援できるようにしていく。
2	保護者様にその日の様子などを詳しく説明し、申し送りが出来ている。	申し送り時に保護者様がその日の利用の様子について絵が浮かぶように説明を行い、ご自宅や学校の様子についての様子について伺う。また、保護者様と同じ方向性を確認できるように行う。	面談時などを通してより学校やご自宅の様子を伺い、支援中に行っている方法などの共有を行う。またご自宅の様子について伺えたことに対して工房で出来ることを考えて答えられるように行い、共通に認識で入れるように連携を取っていく。
3	感染症や虐待などの研修を通して職員の意識を高めることが出来ること。また、避難訓練などを通して職員の動きや生徒さんも都度確認することが出来るため、よりどのように動いたらいいのか把握することが出来る。	感染症であれば、感染のリスクや感染対策などの観点をもとに動画研修を行っている。動画研修をすることにより、支援にもつなげることが出来る。	研修を職員と意見交換を行うことにより、色々な職員の意見を取り言えることができ、職員全体でそれぞれの研修の内容の把握をすることが出来る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用店員が発達支援室等のスペースとの関係について	教室によって広さは違うが、スペースが狭い教室もあり、生徒と職員でいっぱいになり、送迎だけで終わることもある。	教室によって広さは違うが、スペースが狭い教室もあるため、それぞれの教室の使い方を錯誤していく必要がある。
2	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営	外出イベントなどでその地域に行き、体験などを行うことはあるが、地域の方を招待することは出来ていない	地域の方と交流が持てるようにイベントの取り組みが出来るといいかと思われる
3	放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他のこどもと活動する機会	外出イベントはあるが、外で遊んだりすることはないため、交流を持つことがない	イベントにて交流会などが出来るといいかと思われる。